

# モバファク「駅メモ！」好調を維持

モバイルファクトリー(3912)は位置情報連動型ゲーム、キャリア向けコンテンツサービス、ブロックチェーン関連サービスを展開する。2018年12月期は、売上高29億7800万円(前期比22・2%増収)、営業利益8億4900万円(同15・4%増)と、売上高、営業利益ともに過去最高を更新した。今期については、上期の売上高15億5800万円(前年同期比13・8%増)、営業利益4億500万円(同8・9%増)の予想を開示している。同社取締役執行役員の深井未来生氏「写真」に今後の方向性などを聞いた。

——各サービスの状況は。  
業績をけん引している「ステーションメモリーズ!(駅メモ!)」は、リリースから4年が経過した



タイトルだが、依然としてユーザー数が伸びている。18年12月期の「駅メモ!」の売上高・DAU(1日当たりの利用ユーザー)は過去最高を更新。費用対効果の高い広告投資、各種コラボレーション・イベントの実施が奏功した。引き続き、ユーザーの継続率を重視したプロモーションを実施し、「国産『位置ゲームNo.1』」の地位確立を目指す。

ブロックチェーン関連も順調に進行し、19年はDAppsを日本中に拡大するフェーズに入る。2月にはDApps検索サービスリリース予定。中長期的にはDAppsの普及とその中で中心的存在となることを目指す。

——ブロックチェーン関連サービスについて詳しく。

ブロックチェーンを活用した、非中央集権の分散型アプリケーションをDAppsという。近年、世界のDApps数は急増しているが、一方で、①モバイル環境での動作が整備されていない②開発に独自言語の習得が必要③トランザクション手数料が高い——といった課題がある。そこで当社は、ユーザー・開発者の両方にとってDAppsが身近なものになるような道具や環境を提供し、普及を図る。

これまで、ユーザー向けではブ

## ブロックチェーンは将来性に期待

ブロックチェーン対応のウォレット機能付きモバイルブラウザ「Quarage(クワゲ)」、開発者向けでは手軽にDApps開発ができる「Uniqys(ユニキス)Kit」などのサービスをリリースしてきた。将来的な収益化の方法は、広告サービスやBitcoinのフリーミアムモデルなど、さまざまな可能性が考えられる。

——DAppsの活用事例を教えてください。

例えばゲーム上で購入したアイテムやキャラクターなどをトークン化し、デジタル資産として売買することなどが可能となる。また、SNS(交流サイト)やブログではフォロワー数や「イイネ」の数がその人の評価となる。こうした「信用経済」の中で、自分の信用や投稿を分かりやすくお金に換えることもできるようになる。

今後、多くのユーザーが集まるプラットフォームのブロックチェーン化が進むだろう。次世代のインターネットを支える存在として注目してほしい。